



Tokyo Rinkai West Rotary Club

東京臨海西 ロータリークラブ

第2580地区(東分区)



クラブ会長ターゲット

「ロータリアンとしての自覚」
"Awareness as a Rotarian"

2022-2023年度 東京臨海西ロータリークラブ会長

大星 太郎



国際ロータリーテーマ

「イマジン ロータリー」
"Imagine Rotary"

2022-2023年度 国際ロータリー会長

ジェニファー E. ジョーンズ

2023年5月19日[第119回]

創立：2018年11月22日
会長：大星 太郎
副会長：三橋 晶
幹事：継岩 憲二
会報担当：菅秀平/本島厚

5月19日の卓話

5月12日の出席率

6月2日の卓話

地区青少年交換委員会
委員長 飯塚憲貴 様
「ROTEX について」

会員在籍者数 42名
会員出席者数 31名
会員欠席者数 11名
本日の出席率 73.80%

今年度第3回クラブ協議会
次年度第1回クラブ協議会

〈2022-2023年度 例会 第118回例会報〉 2023年5月12日(金)東武ホテルレバント東京「吉野の間」

司会：岸会員

- 点鐘：東京臨海西RC 大星太郎 会長
- 国会斉唱
- ソングリーダー：岡田会員
- ロータリーソング「奉仕の理想」「四つのテスト」唱和
- 「ロータリーの目的」東京臨海西 RC バージョン

- 来賓紹介：大星太郎会長
- 東京臨海西ロータリークラブ 特別代表 齊藤実様
- 東京臨海ロータリークラブ
- 東京臨海西ロータリークラブ 発起人代表 鈴木孝行様
- 東京臨海ロータリークラブ

- 卓話者紹介：大星太郎会長
- NPO法人らいおんはーと 理事長 及川信之様

- ビジター紹介：雪丸会員・飯塚憲貴会員
- 本日はいらっしゃいませんでした

- 会長報告・スピーチ：大星太郎会長
- ライハクキョウさんへ奨学金お渡し・一言
- わんぱく相撲協賛お礼
- 地区青少年交換委員長へ活動費お渡し
- RYLA セミナーパンフレット・感想文集について

- 幹事報告：継岩憲二幹事
- 5月のロータリーレートは1ドル136円です
- ロータリーの友5月号をメールBOXに配布しました
- ガバナ一月信5月号をメール配信しました(4/25)
- バギオだより5月号をメールBOXに入れました
- 本日、例会終了後理事役員会を行いますので理事役員の方3階「藤菊の間」にお集まりください

- 委員会報告
- 社会奉仕委員会 伊藤委員長より 5/27(日) RACのBBQ ご案内
- 栗山パスト会長より わんぱく相撲ご案内
- レインボーライトアップカウントダウンご案内

- 5月のお祝い
- ・会員誕生日 岡田会員、松原会員
- ・「誕生日の歌」
- ・1分間スピーチ：(武井会員)
- ・奥様誕生日 金森会員夫人、西野会員夫人
- 島崎会員夫人、武井会員夫人
- 松原会員夫人
- ・結婚記念日 木津会員、大西会員、清水会員

あるいは年に1回イベント形式でみたいなそんな形で子供食堂をやっているとほとんどなんですね。そういう場所は子供にとって行ける場所楽しめる場所ご飯食べられる場所、人と触れ合う場所がないよりはあった方がいいとは思いますが、この365日、何で毎日やることになったかっていうのは最初これNPO法人設立する前1年間はボランティアでやってたですね。私の仕事をしながら、ボランティアで地域の町内改革からスタートいたしました。

町内会館で始めて、そこに子供たちが「わーっ」ときて、そのうち、近隣の小学校の校長先生が「うち家庭科室空いているから使っていいよ、お金かかんないし」「体育館も音楽室も全部使っていいよ」と。ということで貸していただくことになって、そこで月に2回、子供食堂っていう名前でやると、子供達ってたくさん来るんですね。結構その学校のイベントっていうのは、学校には子供達が毎日通ってるので、そこは慣れた場所っていうのもあるし、いろんなイベントを学校で行うので、子供達も行きやすくてことで、1回の子供食堂70人ぐらい子供たちが来たりします。



それをボランティアの皆さんでご飯を作ってご飯を食べて、体育館ではダンスをしたりとか、何かをやりながらご飯を食べ、そこで触れ合う。2、3ヶ月経った時に「なんかこれ自分の思っている子供食堂とは違うなあ」というふうに思い始めました。これは学校での、当時親父の会とか、所属してましたけども、その辺のイベントとも何ら変わらないですね。「これどこでもやっていることだな」と。自分がやりたかったことってこんなことかなってことを考えたら子供たち70人来て、その2時間、3時間の間にみんなと話ができるかって絶対できないですね。そこ来て何か悩み事があるとか困ってるとかいう子供達の声のすくい上げることはそこではできないっていうふうに感じました。親も来ますが、たくさん人がいる中で、「実はこんなことで困ってるんです」なんてことはそのままでは絶対言えないんですね。そこでの関係性を作れないっていうふうに思っていました。じゃ、どうしよう？いや、こういうことだったら、もっと人数を少なくして、何か困ったことがあった

ら、その場でその日のうちにすぐに相談できるような環境、場所を作りたいな。そのためにはご飯を食べるのは毎日だし。「こんなことで悩んでる。でも、次やるのは2週間後だから……」というのでは「2週間待って、そこで相談しよう」なんて言っていたら、もうどうでもよくなっちゃうんですね。途中でね。そうじゃなくて、すぐに相談できて、しかもこの人に言ったら、ここに行ったら、その問題を解決できるような、そういう場所が近くにあると、絶対にいいな思いました、毎日やりたい。でいろいろ1年間、白井教育長、そして大西英男代議士、当時ね、今もそうですけども、忙しくて代わりに大西洋平さんが窓口となって鈴木総代の方に繋いでいただいて、一緒に場所を貸すよ、と。当時何箇所でしたっけね。A3の紙で何箇所も「このこと、このこと、ここ、好きなところを選んでいいよ」と。鈴木総代もいろんな思いがあって。この青少年育成事業。少年野球であったり、サッカーであったり、中学校の青少年翼事業であったり、いろんなことをされている方で。「子供食堂ね。自分ではできないけどもね、代わりにやってくれよ。朝ご飯を食べさせてくれ。子供達、朝ごはん食べてる子って少ないですね。なんとか食べさせてくれよ。場所貸すから」ってことで、鹿骨をお借りすることになりました。この場をお借りしてなんですけども、今この6年間、この子供食堂が続いているのは全て鈴木総代のおかげだと思っております。本当に高いところではございますが、もういつも感謝して足を向けて眠れないっていうね。そんな気持ちでいっぱいでございます。本当にそういう気持ちです。

本当これがなければ、7000以上の子供食堂があるって言ってましたけども。続けるのってすごく難しいです。始めるの簡単ですけども継続するのはすごく難しいボランティアの現状を見て、「本当この子供達困ってるの？」と、どんどん気持ちが離れてしまったり、子供達はそこで居場所だって思ったところは大人の都合でそれがなくなることってというのは絶対あってはいけなくなっている私は思っております。

そういう意味で、鈴木総代から、せつかくそういう環境を提供していただいたんで。あとは運営、我々で何とかいろいろ、いろんな方に声をかけながら協力を得ながら続けていくってこと。一生。続けていくっていうこと。一生ではないですね。私が歳を取ってできなくなっても、次の代、その次の代と続けていきたいなと思っております。私どものやる活動、子供食堂の他にフードバンク、フードパントリー、フリースクール進学支援、就学支援。ありとあらゆることをやってるんですね。実は最初は子供食堂だけだったんですけども、やってるうちにいろんなことが、そこで見えてくるんです。子供食堂に来てご飯を食べただけで。

その時は空腹はそこで満足できますけども、実際の問題って何だろうって思った時に子供の貧困って

子供が貧困なわけじゃなくて、問題は家庭にある。家庭を何とかしなければ何も変わらないっていうふうに思いました。こちら、江戸川区こども家庭部児童家庭課の丸田課長が来て1人親家庭の話もされたかなと思いますけども。うちに来てる子供の8割が1人親です。母子家庭の子どもたち。後は父子家庭の子供、両親がいない子、両親がいるんだけどネグレクト。

いわゆる放置、放任というかね。そういう子供達なんです。でも、その子供達みんな母子家庭だからって不幸だってことはないですね。シングルマザーでも子供に愛情いっぱい注いでいたら、子供達は全然笑顔で笑ってて、お金なくてね、幸せだよって子たくさんいるんです。その中でうちに来る子供たち、何が足りてないかっていうと、親からの愛情が足りてないっていうのは100%ぐらい全員がそうなんです。こちらこの中にもね、何回かうちに来たことがある方もいらっしゃると思うんですけども。

結構子供達ね、うちに来る大人ってみんな自分たちの味方だって思ってるんで、いろいろ声かけてね、ついてきたり話したりしてくれるんですけども。やっぱり大人の愛情、人からの愛情を求めている。皆それぞれ親からの愛情を求めて、毎日そこに通ってくるわけです。月平均で延べ人数で子供が250名ぐらい、大人が230名ぐらい、親もなんだかんだ理由をつけて、そこに巻き込みながら、この活動していかないと。さっきも言いましたけども、何も変わらないっていうのがあるので、なんとか親御さんも変えていく。

なぜ愛情を子供達に注げないかっていうか、いろんな理由があるんです。でも、色々調べてっていうかね、そういうお母さん達と話をしていくと、実はそのお母さんもお父さんもそういうふうで育ててるんですね。「どういうふうにこの子供と接して、どうやってこの子供に愛情注いでいいかわからない」とあるお母さんが自分はこの子可愛いと思って抱っこしたことが1度もないって言うんですね。そのお母さん親から虐待を受けてました。でも、子供にはそういうことはしないとと思ったんですけども。

愛情が湧いてこない本気で言うんですね。でもね、そういう環境の中で子供って感じが強いんで「お母さん、自分のこと見てるな。愛してるな」って分かるんですね。分かるんで余計親に愛情求めるんです。親に愛情求めるんだけど、それを受け入れてくれない。で、「もういいや」っていうふうに通常なっちゃうんですけども、うちではそのお母さんに言ったのはね、お母さんね、ここに大人もたくさん来るんです。月230名ぐらい。

たくさん大人が来る。子供達もたくさん来るんです。いわばね、疑似大家族みたいな環境の中で、お母さん愛情注げないかもしれないけども、いいんだけど、焦らなくていいから。我々ここに居る大人全員がちよっとずつ絶対にお母さんからの愛情には叶わないけど、ちよっとずつ集めて、この子に注いで、み

んなで育てていきましょうよって話をそういう悩みを持ったお母さん全員にうちではするようにしております。

そうすると、ちょっと気持ちが楽になって、家帰っても少しね、なんか今までと変わった接し方、なんかちよっと声をかけられたりとか、そういうふうで気持ち余裕ができてくるんですね、そういうになるとちよっとずつ変わってきて、今日子供食堂でこんなことあったねって話も今までは「へ〜」みたいな感じだったけど、聞いてくれるようになるんですね。そんな子供食堂ですけども、毎日やることで子供だけじゃなくて、大人も変わっていくという場所がございます。いろんな悩みを持った子供、子供も親にも友達にも先生にも言えない悩みってやっぱりあるんですね。

そういう時に誰にも相談できなくて、もう全然解決できなくて、中学生、高校生、命を絶ってしまうんですね。この間、松戸で高校生が飛び降り自殺をマンションの上からしたんですけども、あれが動画で配信されてるんですね。飛び降りる寸前、自分の方にカメラを向けて、2人で友達と手をつないで落ちていって。なんとも痛ましい事故で、その周りに誰かその子供達の話聞いてくれる大人もいなかったのか？そういうふうで思うと、本当に悔やんでならないと思います。

家に来てる子供は絶対そういうことないなっていうふうで確信してます。なぜかと言うと、本当に誰にも言えないような悩み事、皆がいない時とか帰った後とか。「ちょっと及川さん話があるんだよ」と。中学校1年生の女の子、そちらは両親も揃ってて、お兄ちゃんがいて、傍から見たら、全然普通の家庭なんだけど。実は家族なんかバラバラで家の中にも一緒にご飯を食べることがなく、集まることもない。それぞれがそれぞれの部屋で別々のことをしている。「寂しいんだ」と。「夜になると涙が出てくる」っていうんですね。まあ女の子なんですけども。

何か学校でもいろいろこう気性が荒くて人を叩いてしまったりとか、そういうことがあるっていうことを先生から聞いてたので、深掘りしていくと、その時に初めて相談してくれて。ここでの話、学校の話もとお母さんに言いたいんだけど、してくれないんだことを言うんですね。そういうふうで相談できる大人が近くに居るかいなかったという大きな違いだと思います。

毎日やることで子供達が我が子のように思えてくるんですね。そうやって少しずつ愛情を与えて与えられてね。愛情をもらって育った子供って絶対将来悪い大人にはならないなと思ってます。人のことを思いやれる大人になれると思います。

世の中ね、本当に犯罪がすごくたくさんありますけども、今週ですね、あの近くの中学校の教員が近所の方を刺してしまったと。学校でも大騒ぎしますが、そちらの校長先生もうちに子供食堂に何回

も来てくれてます。副校長先生時代からの、知り合
いで熱血教師で、校長になりたいっていうかね、先
生になりたいって頑張ってきた方、本当にきつと悔し
い思いをしてるのかなっていうふうに思います。

その学校に通ってる生徒もフリースクールでう
ちに来てました。今学校に戻ってるのですが、
ちょっと連絡を試みたら、殺人を犯した先生とす
ごく仲が良く、学校ではすごくいい先生だったと
「特別支援学級の先生5人いるんだけど、その中で
1番話しやすい先生だった」と言うんですね。何で
そんなことになったのか。きつとその先生も、そこ
まで成長する間に先生になるまでに、いろんなこと
がきつとあったと思います。家庭環境の中で。そこ
でいろんな関わり、愛情を持って親であったり、周
りの人達が支えていたら人殺すとかそんなことつ
て絶対にできないと思うんですね。

そんな大人にさせないように、そんな大人になら
ないように子供食堂、今の私の子供食堂はそういう役
割を担っているのではないのかなと思っておりま
す。いろいろクリーン活動とかでゴミ拾いとかね、
たくさんいろんなところでやっていますけど、そもそ
ななんですけど、捨てなければゴミって出ないん
ですね。なんで捨てちゃうの？と。自分なんか思
うんですけども、誰かが片付けてくれるからと。

そんな単純な思いでゴミをポイ捨てしてしまっ
たり、タバコの吸殻捨てたりとかするんですけども、
そんなこともきちんと考えられる大人に育ててい
く役割。今の時代、学校でも先生はそういう時代だ
から、誰が教えるのか。親も親になりきれない親
がたくさんいる。じゃあ、もう周りの大人みんな
できちんと育てようよっていう場所がこれ365日。
生活支援型、援助型とここに書いてますけども、最
初はそうじゃなかったんですね。最初子供達だけご
飯食べてとか、まあ思いはあったんですけど、お母
さん達とかいろいろそこで話ができたいいのかな？
ぐらいの感じでいたんですけども、こう家庭の支
援していかないと、成り立たない家庭ってす
ごくあるんです。コロナで経済的に大変だと。

じゃあ、どうしよう。食材の支援をしていこうと、
特にその丸田課長のところじゃないですけど、1
人親家庭に向けての食材の支援、それを始めたのが
もう子供食堂が始まってすぐ後、それからコロナ禍
に突入して困ってる家庭が増えてきて。我々、そ
ういう子供食堂に来てる子、登録してる子が150
名以上いるんですけども、その中で、これがない
けど大変な家庭たくさんあるんです。

そこへ向けて食材を配っていこうということで始
めたのがフードパントリーです。フードパントリー
っていうのは、フードバンクが浅草橋にあるん
ですけども、そちらから我々は食材を持ってきて、
近隣の江戸川区内の大変な家庭へ配っていこうと、
特に子供食堂から派生してますので、うちは子
育て世帯、特に1人親世帯へ食材を今配布して
ます。江戸川区

内で14か所、うちを含めて、鹿骨を含めて14箇
所に食材を配布してます。

ロータリークラブの会社、事業所の前でも実は配
ってくれたりもしております。そういう活動して我
々は1人親支援ということで始めております。行政
でもたくさんいろんな支援をしてますけども、も
っと深く入っていきこうと、食材を配る時にた
だ袋に詰めて「はいどうぞ」という流れ作業で
はなく、そこで一言二言話をしながら、関係性
を作りながら、14箇所で大体週に2、3か所
で配ってます。登録してるのは200世帯ちょ
っとなんですけども、ほとんどそれも9割が、
1人親世帯なんです。

お母さん方来て子供連れてきて、「ああ、どう
した、元気かい？」みたいなそんな話を簡単
なところから入って、だんだん毎週来るごと
に顔を合わせて一言二言、言葉を交わす
ごとに仲良くなって行って「実は仕事
がないんです」とかいろんな話をそこ
でするんですね。そこでうちの方で
仕事を紹介をしているんですよ。

お母さん達に。その中で200何世帯
の中で、今まで3世帯ですけど、
仕事を紹介をいたしまして、そこ
から繋いできまして、初給料の時
には「うちはもうね、働いて給
料いただきました。もう食材を
もらうのは今日で終わりにしま
す。次からは今度は手伝う方に
回ります」と。今も、来てくれ
てますけども、今度は食材を詰
めて仕分けして、それを配る側
に回ってくれたりするんですね。

それで初めて自立支援ということにつ
ながっていくのかなというふう
に思っております。はいちょっと
横道に逸れたら話止まなくなる
ので、申し訳ないですが。ぬく
もりスペース、ぬくぬくは月曜
日から日曜日まで、今日もや
ってるんですね。今日はちよ
っと錦糸町の方に行くので、
夕方から来てくれという話を
してます。夜は毎日塾をや
ってます。5時から6時半ま
で塾をやって、そこからご飯
を食べて、8時、9時ぐらい
にそれぞれ帰っていくん
ですね。小学生だった子供達
ももう中学生になったので、
昔は親に迎えに来てもら
ったんですけども、今1人
で帰っていきます。1人で
帰っても親がいないから
もう帰りたくないって
言って、放っておいたら
何時までいるのかな
みたいな感じなんです
けども、それだけ居
心地がよくなってる
のかなふうに思
ってます。

子供食堂のほかに学校に行
ってる子供も先ほども
いいましたけども、
フリースクールの子
供達もここに来て
るんですね。いわ
ゆる不登校、今年
の高校受験うち
から5人受験しま
した。全員それ
ぞれ行き先決
まって、高校に
入学して頑張
って今登校して
おります。

1人だけ高校に行かない、「もう俺は働
くんだ」という子がいました。や
っぱちょっと学校にはまあ行
ってるんだけど、やんちゃな
子供で中学校1年生ぐ
らいから行っては学校で
問題起こしてとか。でも
根はすごくいい子
なんです。男の子
なんですけども。

その方も実は臨海ロータリークラブの社長さんの方に紹介をして今お世話になっております、いろいろ本当に鈴木総代もそうなんですけども、このロータリークラブさんには我々、子供食堂、すごくお世話になっています。本日ね、先ほどいらっしやいましたけども、栗山会長のところにも実はお母さんから相談ありまして、うちの子供は足を怪我したり、中学校時代からそこは続いてたんですけども学校にあまりいけなくなってから、働いてもちょっと続かなくて足を怪我して自信をなくして、働けなくなってる。そこから7年間仕事せずに家から出られなくなってるんだよ。それを、栗山会長にご相談したところ、「じゃあうちでね、少しずつ、急にフルで働けていうのは無理だから少しずつ慣れるまでうちで使ってもいいよ」ということで、今栗山会長とところにお世話になっておりますね。

その子もどういうふうに思ってるか分かんないんですけども、仕事ができなくて、ずっと家にいることってやっぱり、なんかちょっと申し訳ないなっていう、そういう気持ちってあると思うんですね。今働くようになって、すごく生き生きしてると思うんです。お母さんとも会話が全然なかったんだけど、なんか笑顔で話せるようになった、挨拶できるようになったってなったら、お母さんも喜ぶんですね。そちらもシングルマザー家庭のお子さんですけども、きつとね、頑張っているから、正社員で働いてくれといいなあという願いがあります。油井会長のところでも、この中で子供達、そして家庭に配ってる食材のご寄付をさせていただいてるんですね。冷凍庫の中に食材がたくさんあって、この中でちょうど飲食店さんとか、老人ホームとかそういう所におろした、食材が大量に余った時に、うちに声をかけてくれて、すごくそれで助かりました。こんな感じで皆さんロータリークラブの皆さんにはすごくご支援をいただいてまして。さらにはうちの子供食堂、私365日子供食堂にいるのって、どうやって生活してるのっていう話をよくされます。その時にうちは会員制になってるんですね。

NPO法人なので個人会員さん法人会員さん、そちらの会費収入だけで運営されてるんです。その話を以前した時に「じゃあ、いいよ。会員になって応援するよ」という方が本当にたくさんこのロータリークラブの中にいてくださっています。

またできれば最後にそういうこともお願いができたらなあっていうふうに思っております。はい。そろそろRCCの話をしてしないと終わらないかなっていうふうに思うんですけども、お待たせいたしました。

このロータリー地域社会共同隊っていうところがあります。こちらの1枚目のペラのところなんですけども。これって何をやってんのことでこの私NPO法人。らいおんは一とのお話しました内容の子供食堂、フードバンク、フードパントリー、フリースクール、学習支援、進学支援、体験活動、就労支援、

引きこもり支援、不登校支援、子育て支援、生活相談、様々ことを今までやってたんですけども、それをこのロータリー地域社会共同隊、そのロータリークラブさんと共同でやりましょう。やってほしいという思いで、東京臨海ロータリークラブさんが提唱クラブさんとして、かといって、これ東京臨海ロータリークラブさんだけがここに関わってやるということではないですね。

国際ロータリーから承認を受けてます。東京あるいは日本全国、もっと言うと世界各国のロータリークラブさんがこの活動に賛同してくれたら、協力するよっていうそういうこの共同隊っていう意味でございますね。臨海ロータリーさんがやってるから、うちはいいやとかそういうことではないですね。ただこれ、いろいろ決まりがありまして。そこから資金援助はできないということがあるんです。ロータリーさんから実際にお金の援助はできない。でも、これいろんな活動するのにお金はかかる。じゃどうするのっていうと間接的に私どもここ運営しているらいおんは一とのNPO法人の会員になっていただいて、そのお金を使いながらRCCの活動していくのと、下の方に映ってますけど、これ自動販売機、コカコーラさんと共同で1本ジュースを買うごとに10円がこのRCCに寄付をされます。10円がもう100本、200本と売れていくと結構な金額になります。そのお金を使いながら、この活動をしていくということです。

今、一番最初にできたのは江戸川区ではなくて、市川南の建設会社の社員寮の中に第1号機が置かれたんですが、実はこの度、我々フードパントリーに食材を配ってもらってる雑貨屋さんの前に江戸川区第1号機が置かれました。これ子供食堂応援とでかかど書かれています。手間のがかるところにこの自動販売機で買われたものは一部はRCC、NPO法人らいおんは一とに寄付をされて子供達の健全な育成に使われますっていう表示がされています。これをぜひですね。

まだまだこれ100台200台ぐらい置きたいなっていう思いなんです。これ目に見える。支援。これが例えば皆さんの会社の前にありましたら、「子供食堂応援になるかな」なんて、すごくね。なんかちょっと派手でちょっと恥ずかしいかなっていうところもあるんですけども、目立つものなんですね。こういう社会貢献活動が目に見えて何だろうって皆気にしてみてるわけなんです。「ではこの会社ってこういう活動してるんだ。ちょっと協力しようかな。何か仕事のね、依頼もこういう感じだったら、ちょっとお願いしたいなあ」と思うかもしれません。

いろんな寄付の仕方、社会貢献の仕方があるとは思いますが、本当に分かりやすい、一番分かりやすい支援方法ではないかなというふうに思ってます。この災害時ですね。この赤い詳細の紙と一緒に入れていますけども、こちらの方にいろいろ書かれて

ますけども、災害時にはそこは、非常用の飲み物として、開放されるとか、そういう役割もこの自動販売機は果たしております。で、いろんなラッピングとかも自由にできたりもしますので、「もしうちにおいてもいいよ」「貢献したいよ」という方がいらっしやいましたら、コココーラさんと一緒に向かいますので、是非よろしく願いいたします。このRCCの活動、名前決まってるんで、江戸っ子ぬくもり応援RCCって、ちょっと長い名前でなかなか覚えにくいと思うんですけど、1番最初にやったこととしてはフードバンクを作りました。フードバンク作りたい。今までフードパントリーで食材を配ってたんですけど、大元の食材を集める場所が欲しいということで今清新町にあります青森大学江戸川キャンパスの中一部教室をお借りして今年1月からフードバンクとして活動しております。フードバンクでその他にその食材を配ってる団体がありまして、ほかの5団体と共同でネットワークを作って食材を集めて、その他の団体とシェアしながらあとはその子供食堂であったりとか、必要なところ先ほどもありましたけども、社長さんとも連携をしてそちらにあげたりもらったりとエコセンターさんとかもうフードドライブで食材が集まっているのでそこからいただいたりあげたり、そういう役割をしております。先日も大きな地震ありましたけども、災害時に地域の方々に食材を配れるように常に200世帯ぐらいですけども、ストックをしております。何かあったらそこを解放して、地域の防災拠点にしていけたらなあっていうふうに思っております。最後に、もう1枚高校このその宣伝のチラシが入っているんですけど、14日今週の日曜日に今回5月に初めてやるんですけども、関東一高さんね。江戸川区内高等学校スタートアップ相談会っていう、高校相談会をやるんですね。

この毎年8月に大体高校110校ぐらい、東京都内外の高校110校ぐらい呼んで、その段階でやってるんですけど、その前哨戦、関東一校の校長先生の方から、8月の相談会だと3年生にとって遅いんじゃないかと。もっと早くやってほしいっていう思いがあって。1学期が3年生になってすぐの5月にこの相談会をやることになりました。

それが14日っていう今週の日曜日にやります。江戸川区内11校ありますけども、そのうち9校が今回参加をしてくれて、中学校3年生のみですけども、相談会をやります。また8月にも行うのはそれは江戸川区内の全中学生対象、1万5千6百人ぐらい。そちらの家庭に、パンフレットを配布してお配りをして、そのパンフレットの広告費で運営されていくというちょっと規模が大きくなるんですけども、大体5000人ぐらいの来場者の規模でやっております。また近くなりましたら、そちらのお願い持ってこれたらなと思うに思っています。まだ確定ではないですが、9月に今度は愛国学園さん、そちらの方で高校説明会をやってほしいっていうお願いが今来てお

ります。らいおんは一ととして子供達の成長のために年に3回、中学生のため5月と8月と9月にこの相談会を行って、高校に自分達の将来のためっていうかね、安易な気持ちで高校に入ってすぐ中退する方がすごく増えてるんですね。

じっくりしっかり考えていただいて、自分の意思で高校に行って、最終的に自立した社会人になってほしいって思い込めて、この進学支援も併せて続けていきたいと。これを全て運営するのはNPO法人らいおんは一とですけどもこのRCCで、江戸っ子ぬくもりRCCってところで、今後は全て賄っていききたいなというふうに思っております。さらには、今社会問題になってますけども。新宿歌舞伎町東横キッズとか、全国家出少女とかどんどん集まってきているんですね。

それが今追いやられてこの場所にはいないんだけど、場所を変えて奥の公園の方に集まると、それはいろんな犯罪に巻き込まれて大変なことになってるよと。そういう子供達、そういうことも救える事業、東京都若年者女性被害支援等事業っていうことで、今後そちらの方も変わって行けたらなっていうふうに思っております。ありとあらゆることをやっている、世間一般的に皆様思っている子供食堂とはちょっと違うかもしれませんが、全ての子供達が幸せな人生を送れるように、みんなで愛情注いで育てていくっていう、そういう場所がもっと増えたらいいな。このロータリークラブさんと関わった中で、自分の次の目標としては同じような365日型子供食堂をもう1つ作りたいと。

東京ロータリー子供食堂ぐらいの名前をつけて、RCCでそこを運営していきたいという夢があります。そのためにもぜひとも皆様のご協力をいただければ社会奉仕、本当にいつ来ても分かるように、目に見える社会貢献ができる場所、みんなでそこを作っていけたらすごく嬉しいなっていうふうに思っております。お時間40分過ぎてしまいました。本当にまだまだたくさん言いたいがあるんですけども、是非、毎日鹿骨におりますので、子供食堂まだ見たことないってことないっていう方おられましたら是非1度足を運んでみていただけたら大変嬉しく思います。

子供たちも大人と話すの最初は苦手だったんですけど、今すごく楽しみにしておりますので、どうぞよろしく願いいたします。本日は誠にありがとうございました。